

陣中日誌

自昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十二月十日

本文附美英法共三十五枚

印
48

獨立混成隊第十五聯隊第八中队調製

22208

陣中日誌
昭和十九年十一月一日
至昭和十九年十二月十日
本文附美英法共三十五枚

寺(具不塵)
要古所
沖繩縣西頭
那波里島

一、此島方面敵ハ多クテ獲客ヲ受ケルニ之ニ仕至リ兵力
激切ヲ増大シ南西諸島ニ對シテ之機ヲ見テ、西軍ハ之
等ニ策動ニ依リ明クテ其情況ヲシテ

中隊ハ伊江島守備隊トシテ依然前任務ヲ履行シ陣
地ノ急整ナル完成ニ全カク注意シテ、最近守備隊
附近ニ探照網ヲ構築シ有ルモノ如ク、本夜敵ニ警戒
ヲ嚴テラシム

二、八ノヨリ村民ノ勤勞奉仕ヲ得全員陣地構築ニ從
事ス

三、中隊長ハ去ルテ九ヨリ軍實施、向飛濱留見學、為メ那覇
市附近ニ出張ヤ、トニコロ九。歸隊ス

四、勤務者

日直下士官 兩部軍曹

五、隊人員(大隊本部木紋成隊分遣ヲ除ク)



左方 將校三准士官一 下士官一ニ夫八
 山山分也 將校一 下士官一 夫九
 計一三〇名

音二重不懸(一)四五・左情報ヲ受ク
 要天
 集島空府

左記

有カレ水上部隊(重母・在否不明)ハ一日二二〇〇ノ位置
 那爾九六度五五〇度 明日當方ニ未獲ノ算ナシトス
 各隊ハ嚴ニ警戒ヲ要ス
 右情報ニ依リ水夕及ニ明音早晚ノ未獲ヲ豫期シ防空
 警戒ヲ嚴ナラシムベク各小隊ニ命ズ
 二本日ヨリ各小隊ヨリ兵長者ノ人優秀ナル上等兵ト兵五ヲ
 差出サシメテ隊長直接指導シ野戰陣地ヲ構築シ、

集島空府

教育ヲ實施シ將來是等ニ依リ小隊陣地構築基範ヲ
 示シム

一八〇〇ヨリ依然陣地構築ヲ實施ス

二勤務者

日直下士官 塚口位長

四隊人員 前日ニ同ジ



上月三日
 晴天
 伊江島空府

一昨朝、情報ニ依リ防空監視哨ヲ設ケ防空取圍準備
 二在リタルモ敵機ノ未獲ヲ認メズ
 三本日明治節ナルヲ以テ二二〇國民學校ニ在リ全員ヲ
 集メテ送拜式ヲ舉行シ式典終了後左記要旨ノ
 訓示ヲ為ス

左記

重鴻中航空戦、戦果ニ鮮ク、コトナク陣地構築ニ
邁進シ精神ヲ緊張シ任務ノ達成ニ邁進セリ

期スベシ

二右行事終了後午前中兵器被服、手入ヲ實施セシメ
午後營外休養ス

四勤務者

部隊日直將校

中隊長

準頭衛兵

白井軍曹以下五名

日直下士官

樋口軍曹

五隊人員變化ナシ

十月四日

晴

伊江島

西江前

女原(大森)

中倉(大森)

一村長勤務兼任、得終日陣地構築ヲ實施ス

二隊人員其他變化ナシ

伊江島地區隊命令

十月四日二〇〇

一、午前六時五十分、部隊長室ニ於テ隔上小隊長以上、

會同ヲ實施ス

依而同時同所ニ集合スベシ

依生中尉、田中中尉、同會同ニ参加スベシ

三各隊ハ自隊ノ作業情況ヲ考慮シ本月十音以降、

於テ實施シ得ト知リ左記課目ノ教育指導計畫

ヲ成立案シ大隊長ニ提出スベシ

左記

一、對戰車肉薄攻撃(各種地形ノモノヲ計畫)

二、挺身奇襲(夜間ヲ利用シ敵ノ橋頭堡ニ向

テ挺身奇襲スルモノヲ計畫)

夜本第〇八號

計畫ハ綿密ニシテ必勝ヲ期スルヲ要ス

伊江島地區隊命令 上月廿日 一六〇

一 旅團ハ旅団命令下第三三號ニ基キヤ人的戦力消
耗ノ主因タル急性傳染病ノ徹底的ヲ通ラ企

圖ス

二 地區隊ハ傳染病ノ支除及傳染経路ノ遮断ニ

道徳ヲモテ掩殺ヲ實施スルト共ニ掃蕩戰

備以上ノ状況下ニ於ケル所疫給水ノ根本對策ヲ

樹立セントス

三 各隊ハ別欲題目ニ基キ傳染源ノ支除及傳染経

路ノ遮断ニ道徳ヲモテ掩殺ヲ構スルト共ニ所疫的

給水ノ根本對策ヲ樹立スベシ

伊江島地區隊長 西村大尉

夜本第〇八號

十一月廿日

晴

伊江島

西江前

一 本朝六三〇將校及下士官ノ集合ヲ命ゼラレ

本朝前夜場ニ於テ旅團長閣下ノ訓示普及徹底ス

ベク大隊長ノ訓示ヲ次々テ閣下中討ヨリ旅團會報

傳達ラセリ

二 八〇ヨリ前日ニ引續キ勅命奉仕ヲ得令員陣地構

築ヲ實施ス

三 三三〇警戒警報發令ナル

四 三三〇警戒方ノ有カレル敵機初部隊此ニヤト情報ニ

依ル

一 隊人員 変化ナシ

二 南才軍指定(伊海軍兵)消息ニ依レバ昔一六五マシラ

基點六五度ニヨリニ航空母艦ニニ隻戰艦一集

船舶約四〇隻ヲ敵機初部隊此ニ中ニシテ北進艦

艘ハバ六一早曉沖浦南才約ニヨリニ達ス嚴戒

情報



五月六日
晴
伊江島
西江前

安アリ

一昨及ノ情報ニ依リ、五。起未全員對空戰團集津
浦ニ着キ、敵天ヲ迎テタルニ敵機ノ來襲ヲ認メズ
ス。ヨリ夫大塔區分ニ依リ、全員津地構築ヲ實施
ス

ニラシ。警戒警報解除

ニ五。ヨリ中隊長ハ部隊長室ニ於テ實施セラル
會同ニ出席シ、此ノ際ニ指不ヲ受ケリ

左記

一軍隊住民混住禁止ノ件

ニ危急隊カ、對策ニ關スル件

一右會同ヨリ歸隊後直ニ小隊長及連絡係下ニ召集メ
右ノ件ニ關シ、左ノ如ク指不ス

一現在、如何向(家屋内)ニ於ケル住民ト、混住ヲ禁ズ、假
シテ第一不隊ハ現在獨主機關院中隊ニテ使用シタル

茶葉會販賣所ヲ

第一不隊ハ所設給水機使用ノ家屋ヲ使用スルヲ得レ
ク、以テ夫夫連絡ヲ持テ、右引繼ガヤ打合スル

指揮隊ハ空島曹長以下所長、傳令ヲ以テ國民
學校ニ入り、事務室ハ樓息掩蔽部前庭屋ヲ

使用スベシ

第二不隊ハ樓息掩蔽部内洞窟家屋ニテ分隊ヲ
面餘ハ國民學校ニ入ルベシ

右如ク定ルモ、明白ニ正午迄將指シ得ザレ場合ハ
一將國民學校ヲ使用シ、遂次轉宿スベシ

之敵ハ最近潜水艦ニテ間諜ヲ揚陸セシメ策動
シアル形跡アルヲ以テ爾今適宜ノ時機ニ當リ
以上ノ指揮スルニ際シテ米明・五・ヨリ水道シ之等
間諜ノ撲滅ヲ圖ルヲ以テ先ヅ中隊ハ八日ニテ水道
入

五勤務者

部隊指揮官 伊藤 佐長以下七名

日直下七名 岡部 軍曹

大隊人員 變化ナシ

合報

一教育隊習練破作業者時ニ於ケル危事豫防ニ對
スル意見ヲ八日明旨・九日迄大隊長ノ下ニ提出ス

支隊命令

十月二日

晴

伊江島
西江前

依然陣地構築・資材ナル共ニ一部・兵力ヲ以テ國民軍
隊ハ陣地ヲ行ニ正午迄之ヲ完了シ宿營状況報告ヲ
大隊本部ニ提出ス

一四・今隊長以上ヲ集メ對戰車攻撃及同陣地構築資材
ヲ一人ニ題シテ隊員ノ下ニ提案ヲ命ズ

一陣地(主トシテ彈藥庫)及宿營状況視察・タメニシテ

大隊長米味セシル

隊人員 變化ナシ

十月八日

伊江島
西江前

一本朝米明・五・中澤少尉 指揮スル一隊ヲ沿岸巡査

派遣ス

右巡査ハ異状ヲ認めズ

受領命令書
原簿第幾號

一 全頁地籍簿集ニ事從ス
二 一三〇中隊命令第廿九號ヲ受領ス
四 右隊命ニ基キ本八日面ニ燈臺附近ニ於テ實地ニテ
レタルケソリシ戦法基礎研究演習ニ中澤少尉ハ參
加見學セリ

五 隊人夏ニ變化ナシ

伊江島地區隊命令

伊江島一三〇

一本八日面ニテ燈臺附近ニ於テケソリシ戦法基礎
研究ヲ實施ス依テ研究員ハ出場研究ニ從事
スバシ前一般將校ニ好メテ出場スベシ
一三〇場前ニ自勤貨車ヲ準備ス
ニ米ルヤ日六三〇ヨリ約一時間對戰車戦闘ニ關スル
幹部教育ヲ實施ス
依テ今隊長以上役場前ニ集合スベシ

會報

一 一般ニテ以テ、燈臺ヲ嚴禁ス但シ各隊長室
並ニ事務室ヲ除ク尚且、燈臺ヲ造リ、遺失シ留意スベシ
一 對戰車演習ノ見本ニ兵隊ニ於テ複製シ、明九日正午
以降部隊隊長室ニ配列スルヲ以テ各隊ハ參考ト
スベシ
四 明九日非常用糧秣ヲ天村ニテ何前命令ニテ使用ス
確實ニ保管スルニ度シ細部ハ若林主計中尉指
示スベシ

十月九日

一 村民ノ勤勞奉仕ヲ得全頁地籍簿集ニ從事ス
二 中隊長ハ大隊長ヨリ各隊、彈藥庫ヲ調査シ命令スレ

伊江島
西濱前

九。各隊連絡係下三宮ヲ伴ニ各隊ノ陣地ヲ見學
ニシメシムルノ相違ヲ責メテス

三。中隊ハ明日ヨリ約一週間ノ豫定ヲ以テ對敵中隊時
施設ノ構築ニ全クヲ限リテ從事スベシトス

依テ一。九。中隊命令ヲ不遵ス

不遵命令

中隊命令

六月九日ノ三二

一。敵向ノ推移ト對米數ヲ得實ニ體ニ爾後當分ノ間
對敵中隊擊殺願ニ備付ルニ點ヲ指シ中隊陣地
施設構築及訓練ヲ責メテシトス

二。各小隊長ハ部下中隊ヲ以テ工事ノ所(倉前團到
練資材)ヲ擔任シ構築スベシ構築要領(別紙)
及場所ノ現地ニ於テ指メス

三。各小隊指揮隊長ハ部下中隊ヲ督勵監督スベシ

四。吉田軍曹ハ現有矢負ヲ以テ彈藥庫構築ニ任メシ

五。之ニ要スル資材ハ現有資材ヲ以テ極力ニ天資地スベシ
六。折命ノ工事ハ未カキテ道ニ各小隊並ニ夜ヲ徹シテ之責任
ヲ以テ之ヲ完成スベシ完成セル中隊ハ速ク報知檢閲後
休養スベシ

休養スベシ

七。工事及訓練資材間ノ勤務員及便役兵ハ各中隊

均衛トスベシ

八。勤務員及員ハ各小隊長ニ於テ各中隊ニ分配區署スベシ

九。本工事及訓練資材間ノ構築工事及一般陣地構築

ハ之ヲ中止スベシトス

中隊長竹田中尉

四。一。三。ヨリ中隊長ハ各小隊長連絡係下三宮ヲ伴リ前記
命令ニ基キ現場指メテ行フ

五。勤務者

初陣日軍將校 中隊長

日直下七官 三日軍曹

大隊人員 變化ナシ

伊江島地区隊命令

伊江島地区隊

支隊命令書
支隊第八九

四日直直ニ送來將校左通一服務スベシ

月日直將校	送來將校
二五廿日午時	中澤中尉
〇元	渡邊中尉

會報

一爾分休日ヨリ九記、加リ實施スベシ

左記

水曜日 第八中隊 野砲

二休日、日勤勞奉仕マレ際ハ各隊ハ午前午後共約半數、矢力、陣地構築ニ差込スベシ

二自己中隊休日ニ當リ午後陣地構築ニ出場スル者ニ限リ

三二六時、間外ハシテトヲ得

四休日、際ニ於ケル外出時刻ハ二級ニシテ、以降矢ニ在リ

ナハハ六ニ送下七官ニ在リテハ八ニ送トス但シハ七官

ニ越後所、使用ハ六ニ以降トス

五車庫及越後所ハ毎日(金曜日ヲ除ク)九時一八時

迄開放スシム但シ午前中、使用ハ休日配管中隊ノ

矢賣中午後作業ニ出場スル者ノミトシ中隊ニ於テ

細部ハ指テスベシ

六下七官以下ハ自己配管休日ニ車庫越後所ヲ使用シ

其他、日ニ於ケル外出ハ使用ハ嚴禁ス

七二級ノ公用以外ハ外出ヲ禁ム 公用者ハ在野以上ノ證

明書又ハ公用腕車ヲ付シマラヌ

八在野以上ノ車庫並ニ越後所ヲ利用ハ日夕無休

青十日
雨天

伊江島

トス

一將校及分隊長全員(山々分隊長を含む)ヨリニ役場前

ニ至リニニヨリ約一時間大隊長、對戦車戦用ニ關ス

テ警ヲ受リ

ニ大隊長ヲ命ジ依リ本日ハ兵ハ先着被服ヲ入テ實施

スニシメ分隊長以上ハ對戦車戦法ヲ研究ニ從事ス

尚勤勞奉仕ハ本明日ハ行ハス專ラ増産ニ從事スベク

通達ス

ニ隊人員變化ナシ

青十日

雨天

伊江島

西江前

一昨夜未、雨ハ刻々激シク風之ニ加ハリテ陸軍未獲、前敵

ヨリニ事ニ着キ不意ナルヲ以テ前日ニ引續キ對戦車

戦法ヲ研究テ實施ス

ニヨリニ作命第五號ヲ受領ス

本日中ニ陣地内ニ自カラ以テ貯水槽、構築ヲ命ゼシレ

渡邊中尉ヲ本員ニ命ジ所要ノ現地偵察ヲ實施

ス

ニ午檢下ニ宜ク以上ニ對シ左記料題ヲニヨリニ隊長ノ下

ニ提出ス

ハヨリ將校ヲ集メ之ヲ別討ヲ行フ

左記

夜間ヲ利用シ敵ノ橋頭堡ニ向ヒ挺身スル

ハ方法、ニ賞状、人員、ニ時期

四夕刻ヨリ風速益々加ヘ濠風雨トナリ夜ニ入ル共ニ一層

廣域ヲ要スルヲ以テ耐風準備ヲ實施セシム

五隊人員 變化ナシ

大塚金吾

十月十一日

赤倉正親

二各隊隊長等ヨリ自己中隊陣地の自力ヲ以テ耐風備

・精果ニ準備ヲ要スルナシ

特ニ伊江成田間邊ニ在ル各隊ハ(概ネトモ或テ基準)西水

ヲ天然的ニ貯水シ得ル如ク計畫(準備)スベシ

之作業ノ着手ハ一級工事ト併行シナルノハ數人員

ヲ以テ行ヒ十月廿二日迄スルモノトス

地隊長 西村大尉

重第入流

伊江島地区隊命令

一、陸軍部長 伊藤勇三

首ニヨリ大隊水和兼務ヲ命ス依テ而醫務室

ニ於テ服務スベシ

十月十一日

曇天

伊江島

西江前

一、昨十日未行候ニ至ル西水ノ貯ル界地各小隊毎ニ

所命從ヒテ貯水準備實施精果及耐風準備實施ス

一、西水貯水第一班下長領シ渡島村ノ敷牛間ニ在ル

給水準備要テ今セラレ一ニテ、向隊長處至ル果合

シ業務遂行ニ備ヘテ準備ス

三、西日合備要テ、備休リ伊江島駐在長ニ報告ス

セラルル候事ニ備ヘテ準備ス

四、西江前駐在長ニ報告ス

五、島務報告

伊江島駐在長以下五名

一、委員長 小川中尉

委員 井出口重三郎中尉

渡辺中尉

伊江島駐在長

若林主計中尉

川上少尉

廣瀬少尉

戰鬥間ニ於テ先給水準備委員長並ニ委員ヲ命ズ
該委員ハ各隊貯水槽ノ位置及人員ニ慮ルニ容積
資材ノ準備分配及工事指導ニ任ズルモノトス
各隊ハ前項委員ト連絡シ貯水槽ヲ本月中ニ構築
スヘシ

三給水準備委員ハ本十二日一五〇〇リ新隊長室ニ
集合シ地区隊長ヲ南後ノ事務進行ニ関シ所望ノ
指示ヲ受ケルヘシ

伊江島地区隊長命令

一、二、一、二、七、五〇
伊江島本部

一地区隊長ノ實力増強ノ目的ヲ以テ自工月十一日同ノ創意
工夫期間ト定メ之カ效果ノ獲得ヲ期シ努力セントス
二各隊ハ果敢ニ奮リ希セル處ニ從ヒ隊長以下創意

要旨

會報

工夫ニ努力スヘシ

特ニ下士官兵ノ創意ヲ獎勵ス各隊ハ本十四日
正午迄ニ創意工夫ノ地区隊長ニ中間報
告ヲナスヘシ

一各隊ハ創意工夫ノ製作ヲ認可シ多數製作シ
本十三日正午迄ニ本部ニ差出スヘシ

二十月二十日一六三〇各隊長(独五山隊長ヲ含ム)ハ部
隊本部ニ集合シ前項試作品ノ審査ヲ實施スヘシ
五種種動外最正ナラズモアリ各隊ニ於テ最ニ指導
スルト共ニ將本部ハ機會教育ヲ實施シ敬禮
不良ナルモノアリ名時ハ除根氏名ヲ所屬中隊長
ニ通報スヘシ

大巡察官ノ部長ニ對スル報告ハ具體的ナルヲ
要ス高巡察ニ方テ八日直井技士所望ヲ指

示ヲ受ケ報告ハ日直將校一團ヲ提出スベシ

十月十二日

晴

伊江島

西江前

一 依然全員ヲ舉ゲ對敵車陣砲備築固攻壕構築ニ
從事ス

二 二〇〇各隊指揮班連絡係下士官ヲ集メ至九十六日迄

ニ各人一葉ノ創意ヲ天ヲ全員中隊長ニ提出ヲ命ズ

三 渡辺中尉ハ一六〇〇一八九〇ノ間野水槽構築委員會ニ

出席ス

四 隊人員(本部勤務ヲ有シ採除ヲ除ク)

主力將校ニ准士官一十名ニ兵八二 計九十八名

山々分直隊將校一 下士官ニ 兵一九 計二二名

計 一二〇名

伊江島地区除命令

一、一三、一六〇

一 旅團ハ別冊(球一八八〇)新隊防衛擔任地域内ニ於ケル

反領命令
西作等
五十三號

軍重要施設警防實施地要領一ヲ以テ秘匿地域警

警防ヲ強化ス

二 地区内ハ前項ニ基テ左記要領ニ依リ秘匿地域

ノ實施セントス

左記

一 島内ノ特定秘匿地域ニ一般秘匿地域トシ已分レ
其ノ地境界ヲ立入禁止ノ制札ヲ樹立シ個所別表
ノ如シ

二 地区内ハ旧陣頭ニ歩哨ヲ配置シ本島ニ出入スル
者ヲ監視スルトモ十月十日以後海所要ノ巡察ヲ
派遣シ居住許可證又ハ立入許可證ヲ持テ
セザル者ノ取締リニ付セム

三 各隊陣地構築業務工率補助者ノ特定已
域及入ハ各隊毎ニ指揮者ノ引率ニ依リ出

會報

入スルモトシ其ノ軍獨行動ヲ許サズ

伊江島地邑隊長 西村大尉

一敬禮ハ嚴正ニナク、アルモ一部復禮者ニ答禮
終ラサルニ敬禮動作ヲ終ル傾軋アリ各隊ニ

於テ指導スベシ

二幹部ハ答禮ヲ確實ニ實施スベシ

十月十四日

伊江島

西江前

一村民ノ勤務奉仕ヲ得テ引續キ對戰車障礙並肉攻壕
構築ニ従事ス

二中隊長ハ終日奉ル十九日實施セラル、對戰車肉
薄攻撃査閲計畫ヲ立案ニ従事ス

十月十五

伊江島

西江前

一村民ノ勤務奉仕ヲ得テ引續キ對戰車障礙並肉攻
壕構築ニ續行ス

二自ラハ對戰車以上ハ伊江島東側地區ニ於テ實
施セラレタル大隊長ハ幹部教育ニ全員出場ス

科目九ノ如ク

一重火器各陣地ノ戰車對スル方策

二對戰車攻撃ニ關スル方策

三右教育終了後分隊長以上全員集合ニ機會ヲ利用
シ中隊長ハ先般來ル大隊長注意事項等ニ關シ一

兵ニ至ル迄普及スベク達ス

四五〇九ノ中隊命令ヲ下達ス

九 記

中隊命令

十月十五 一五〇〇

一中隊ハ明十六日ヲ期シ對戰車肉薄攻撃ヲ期スル

第一次工事施設及資材準備ヲ終了セリトス
 二各分隊指揮班ハ明十六日中ニ豫定ノ工事施設
 及資材準備ヲ完了スベシ
 三各分隊指揮班ハ工事施設及資材準備完了
 次第中隊長ニ報告シ檢閲済合格後休養スベシ
 四檢査時ハ作業時ノ服裝ノ儘工事施設附近ニ整
 列シ所属小隊長指揮班(含ニ示隊)ハ檢査時正
 會スベシ
 五明後十七日午前中ハ不合格分隊以外ハ努メテ中
 隊内使役ハ取止メ專ラ營内休養スベシ
 六各小隊指揮班長ハ査閲時ニ施ケル審判(演習
 計畫ヲ明後十七日迄ニ要圖報告スベシ(テ所
 半紙半面)
 中隊長 竹田中尉

五 陸軍一等兵 滝澤 右二
 右早發性血尿性疑(病名未定)ニテ名護患者
 收容所ニ入院ス
 右患者付添トシテ衛生兵長曾我平作外兵二名
 二泊三日ノ豫定ヲ以テ同時出張セシム
 六 勤勞者
 準頭衛兵 保所伍長以下五名
 本日ヨリ日直將校ヲ設ケ半週番勤務トス
 日直將校 中澤少尉
 日直下士官 村山 軍曹
 日直上等兵 小山 兵長
 七 隊人員將校四在士官一下士官天兵二〇計二三一名
 伊江島地區隊命令 十一月十五日 一六〇
 衛生部見習士官長谷川義之助
 受領命令 西司令八號 一自十一月十五日 二泊



衛生隊長 曾我平作
 陸軍上等兵 小林清吉
 山田清男
 衛生業務連絡ノ為ニ名護町憲兵寮養所出張
 ノ命ズ

十月十六日
 曇天
 小雨

一前日同様全カヲ以テ戰車障礙及肉攻壕構築ヲ實施シ本日午後之ガ施設ノ検査ヲ實施セントス
 二國民學校ニ於テ尤ノ如ク午前午後ニ亘リ小野寺中尉ノ講演並ニ實兵教育アリ幹部(分隊長以上)會員之ニ參加ス

日記

自一五〇〇。ヘリリウ島戰訓ヲ基ク講演

自一五〇〇。實兵指揮ニ依ル教育

二六〇ヨリ本日迄ニ構築セル戰車障礙及肉攻壕構築ノ検査ヲ各小隊毎ニ實施シ不備ノ點ハ引續之ガ補修ニ事ヲ實施セシム

四二〇〇西作命第五四號ヲ受領シ尤ノ中隊命令ヲ傳達ス
 中隊命令 十月十六日 一〇二〇

一中隊ハ西作命第五四號ヲ基キ當分ノ間自一〇二〇。至一〇九三〇間對空監視哨ヲ設ケ對空警戒ヲ嚴ナラシメントス

二第一小隊ハ偶數日第三小隊ハ奇數日前項時間中兵長若クハ上等兵ヲ長トセル四名ヲ第三機關銃中隊陣地附近台上ニ位置シ對空監視ニ任ズベシ
 服裝ハ軍裝ニシテ背表ヲ除クタラシムシテ携行
 三對空監視哨ノ出ツル小隊ハ其ノ當日中隊ノ對空

射撃部隊トス

四空艦隊ハクタクシヨシヲ以テ傳達ス同解除モ同ジク
次焉要領ハ從前通りトス

中隊長 竹田中尉

伊江島地區隊命令 十一月十六日ニヨリ

受領命令
原案第百五號

一敵ハ其ノ機體ヲ以テバラオ郡島方面ニ於テ又

其ノ基地航空部隊ヲ以テ支那基地ヨリ出動準備

中ナレモ、カク近ク南西諸島攻撃スルノ算アリ

二地區隊ハ獨混留放作命第七六號ニ基キ對空警

戒ヲ嚴チラシメトス

三各隊ハ當分、間々六〇〇ヨリ九三〇ノ間丙號戰備ニ奉

對空監視哨ヲ增加配備スベシ

四各隊ハ十月十日空襲後ノ教訓ニ基キ人員兵器彈藥

馬匹等其ノ他軍需品ハ分散敵對策ニ遺憾ナク期

スベシ

五特ニ警戒ヲ要スル時刻ハ六〇〇ヨリ九三〇ノ間トシ

(丙號戰備)當分ノ間起床ヲ五三〇トス

六對空射撃部隊トシテ一般中隊機關銃中隊ヨリ各

々一小隊ヲ六〇〇ヨリ九三〇迄對空射撃位置ニ就カ

○ ンムハシ

七各隊ハ陣地構築ノ間ト雖モ敵機ノ來襲ニ當リ

速カニ退避シ又前項ノ對空射撃部隊ハ直チニ

射撃任務ヲ服シ得ル如ク位置シ置クベシ

八各隊ハ兵器彈藥糧秣ノ分散遮敵ヲ一層徹

底的ニ實施シ其ノ結果ヲ明十七日ニヨリ迄地區

隊長ニ筆記(要圖)報告スベシ

九明後十九日ハ本部及各隊ノ兵器彈藥糧秣

ノ分散遮敵狀況ヲ検査ス各隊長及主任者ハ

立會スベシ

地區隊長

西村大尉

十月十七日

雲天

伊江村

西江前

一 午前中營内休養ヲ實施ス

二 二〇〇西渡命第一號ヲ受領ス

三 右命令ニ基キ一三〇〇整列ヲ以テ警備演習ヲ實施シ

四 警備中隊毎ヲ對敵車一四三〇一先ヅ演習ヲ中止シ入浴

ヲ實施シタル右各小隊毎ニ對敵車戰鬥肉攻動作ヲ約一

時間演練ス

四隊人員 變化ナシ

伊江島地區隊命令

一 本十首ノ警備演習ハ敵ノ主力ヲ以テ東海岸(砂濱

地帯ヨリ一部ヲ以テ燈台及山部落方面ヨリ上陸シ

テ

受領命令
西渡命第一號

來ル場合ノ豫備陣地ハ轉移動作射撃手並ニ村落内
ノ對戰車戰鬥ニ關シ本部及各隊毎ニ二三〇〇ヨリ一六〇
迄訓練ヲ實施スベシ

一 對戰車ハ旗偽戰車等ヲ以テ各隊毎ニ計畫實
施スベシ

二 予ハ重火器ヲ轉移動作及自衛動作ヲ觀察ス

地區隊長 西村大尉

司令 高橋中尉

副官 服部曹長

巡察 中澤少尉

右頭書ノ通リ通番司令同副官並ニ巡察將校
ヲ觀察スベシ

伊江島地區隊命令



十月十八日
伊江村
西江前

一午前對戰車障礙並ニ同資材、補備作業ヲ實施ス
二午後中隊長指導シ一三〇ヨリ對戰車戰鬥教練(主ト
シテ肉攻衝取)ヲ實施シ二七〇終了後明日ノ查閱ニ
要ル演習資材ノ整備ヲ實施ス
三入院患者附添トシテ名護町ニ出張セル曾我兵長以
下三名歸隊ス
四勤務者
 掉頭衛兵 高野軍曹以下五名
 巡警將校 中澤少尉
 週番士官 田澤准尉
五隊人員變化ナシ

十月十九日
晴
伊江村
西江前

一午前〇八〇ヨリ本日午後實施セル、查閱計畫基
キ之ガ豫行訓練ヲ實施シ一〇〇終了解散ス
二午前大隊長ノ彈藥及糧秣ノ分散格納狀況視察ヲ
受ク
三西ヨリ戰車肉攻攻撃ノ查閱ヲ別納計畫附表基ニ
ニ基キ受閱ス
 講評尤、如シ
 尤 記
中隊長以下ノ努力ニ依リ短時日間ニ於テ大ニ勉強ノ
跡ヲ見ルハ此區隊長トシテ満足ニ思フ以下講評ス
一攻撃方法ニ就テ
 矢ノ狼狽ヘタル為、隊長ノ意圖通り行カケツタルハ
 遺憾ナリ攻勢初期、補給ニ關シテハ一層演習要ス
二中隊附將校ノ熱心ノ演習準備ニ從ヒタルヲ見非常

受領命令
曹長第八號

満足ニ思フ

三如何ニハ悠久ノ大義ニ生キ得ルカ一人ニ戰車ヲ殘
スノ確信ヲ得ルコト 死生觀ニ徹スルコト

企圖ヲ秘匿スルコト

尙偽裝ヲ徹底的ニ實施シ自己ノ姿ヲ秘シテ
櫛乙爆薬ヲ確實ニ戰車ノ底ニ挿入スルノ動作
等ヲ演練スルコト

之ヲ要スルニ本查閱ノ成績ハ特ニ幹部ノ努力ヲ依
リ良好ナレト認ム

四查閱終了後戰車障礙ノ復舊作業ヲ實施シ何日
ニテモ之ヲ活用シ得ル準備ヲ行フ

五隊人員變化ナシ

伊江島地區隊命令

十月十日 大島

三十一日 二泊 陸軍衛生軍曹 橋口 辰次郎

陸軍上等兵 石井 安

星野 仙吾

衛生二等兵 笹川 一郎

衛生業務連絡ノタメ名護陸軍野戰病院出張

ヲ命ス

會報

一營外者全員進送品(軍裝品)ノ必要ヲ示シ
様式ニ依リ各人毎ニ一部明ニテ日會報時送報
告セラレ度シ

十月二十日

伊江島
西江村



午前一般ニ休務シ營内休養ヲ實施ス

但シ村民ノ勤勞奉仕ナルニ付其ノ一部ヲ午前作業員
掩蔽部構築)ニ從事セシム此等ハ午後休務セシム

千坂各小隊指揮班毎二夫大場任棲息掩蔽部構築ヲ
實施ス

三隊人員其他變化ナシ

伊江島地區隊命令

十一月十日一〇〇〇

受領命令
曾命十八號

一 明二十日ハ〇〇リ記念碑山ニ於テペレウ島ハ戰
訓ニ關シ幹部教育ヲ實施ス依而勤務ニ支障ナ
キ下士官以上ハ同時迄出場スベシ筆記具携行

會報

一 明二十日實施ノガレソシ戰法演習準備爲メ
各隊ハ尤記人員ヲ明二十日〇七〇迄本部前ニ
出シ第七中隊ヨリ出ツル下士官ノ引率ヲ以テハ
迄燈台ニ至リ發生中尉ノ指揮ヲ受ケシラレ度ニ
服裝ハ單装ニシテ背囊ヲ除ク晝食携行

尤記

西濱命
第二張

〇 兵凡名

伊江島地區隊命令

十一月十日一〇〇〇

本ルニ千言演習並ニ創意ニ大辰ノ實施ニ關シ尤
記ノ如ク心得ヲハシ

尤記

一 勤務支障ナキ將校全員研究員トシテ燈台場ス
ベシ服裝ハ單獨ノ單装ニシテハ〇〇迄ニ燈台附近

ニ集浴スベシ

二 從來ノ研究員及演習部隊(燈台及山々分遣隊)
ハ〇〇〇迄ニ諸準備ヲ完了スベシ研究員ノ服裝ハ

前項ト同ジ

三 第三中隊渡辺中尉ハ各隊下士官一兵一ヲ指揮監督
日一二三迄ニ創意ニ大辰ノ準備(陳列清掃)ヲ
完了スベシ



十月三十日
伊江島
西江前

各隊ハ下士官一兵一ノ當日〇八〇〇迄ニ部隊本部
前ニ見出し渡辺中尉ノ指揮ヲ受ケシムベシ
地臣隊長 西村大尉

- 一〇五〇〇起床直後非常呼集ニ依リ西日命第九號
ノ受領軍裝ニテ本部前ニ集合シ大隊長ノ訓示並ニ
ベレウ島戰訓中兵ニ關スル事項ノ説明ヲ行フ
- 二解散後及軍裝檢査ヲ實施セラルルニテ解散ス
- 三解散後下士官以上ニ對シ爾後ノ教育方針並ニ諸注
意事項アリハハ解散歸營ス
- 四各小隊指揮班毎ニ夫大擔任棟息掩蔽壕ノ構築
ニ從事ス
- 五一三〇〇分隊長以上ヲ集メ大隊長ノ方針ニ基キ各隊

受領命令
西日命
第九號

ノ行事豫定(附表ハ)ヲ説明シ、爾后ノ意圖
ヲ示ス

五 勤 務 方 者

準頭衛兵 樋口軍裝以下五名

大隊人員變化ナシ

伊江島地臣隊長 西日命第九號

一本日〇六三〇部隊本部廣場ニ於テ訓示ヲ行フ
依而各隊ハ同時並行ニ集合スベシ服裝ハ軍
裝上又且ニ重火器砲類ハ所要ノ監視者ヲ附シ
陣地附近掩蔽ニ置クベシ

二前項ノ訓示終了後(概ネ足ツト)大通リニ於テ親
兵ヲ實施ス爾後時ニ於ケル中隊ノ指揮ハ先任
小隊長トシ中隊長ハ補助官トス

三閑兵ノ隊形ハ乙癩隊形トス



十月二十日
時
伊江島
西江島

二〇七三〇ヨリ約一時間下士官以上ニ對シ戰訓教育ヲ
實施ス集合場ノ所ハ本部前トシ筆記具携行
四本二十日第九中隊並面一軒屋附近薄地ニ積
築ス依而各隊以下士官以下三石ヲ〇八〇迄本
部前ニ先出シ大隊副官ノ指示ヲ受ケテシムルコト
地區隊長 西村大尉

燈白山々附近ニ於テ實施セルカラン戰法視察ニ爲
本日旅團長閣下來島セル間演習終了後中隊ノ部
落内ニ於ケル對戰車内薄攻撃演習ヲ視察セル
ノコトナリ朝食後直々ニ各分隊毎ニ之ヲ演習準
備ヲ實施ス
二二〇旅團長閣下ノ視察ヲ受ケ約四十分各種戰



受領命令
四日命
第九號

車障碍物ニ依ル内攻演習ヲ實施ス
三渡邊中尉ハ朝來創意ニ天辰準備人員トシテ各隊ヲ
ノ下士官以下ヲ指揮シ之ヲ準備ニ從事ス
四午後八時演習場ノ復舊作業ヲ實施ス
五隊人員
將校四名以下士官一六兵一〇九計三〇
伊江島地區隊命令 伊江島一六郎
一 陸軍中尉 竹田政雄
右者隊ニハ天部隊ニ於テ實施ノ幹部教育專
員トシテ參加ヲ命ス
陸軍大尉 諸江春美
自十月二十日〇八〇〇ノ間日直司令トシテ服務スベシ
五十月二十日〇八〇〇ノ間日直司令トシテ服務スベシ

十月三十日
伊江島
西江前

受領命令

村民ノ勤勞奉仕ヲ得各小隊共夫夫擔任博息掩蔽
部ノ構築ヲ實施ス

〇八〇〇西作命第五五號ヲ受領ス

依而中隊長ハ右作命ニ基キ山々部若分屯甲中隊
ノ陣地強化ノ爲メ第一隊ノ二分隊第一隊ノ二分隊
派遣シ之ニ從事セシムル各小隊長ヲ夫夫所屬ノ
指示ヲ行フ

日命第九ニ號ニ依ル聯隊ニ於テ實施セラルル幹部
教育專修員トシテ三泊ノ豫定ヲ以テ十一時夜久地附近
ニ出張ス

三午後一部ノ兵力ヲ以テ横穴抗道ニ使用スベキ抗木伐
採ヲ實施セラル

四隊人員變化ナシ

伊江島地區隊命令

十月三十日
伊江島本部

西作命
第五五號

會報

一地區隊ハ昨二十日實施ノ燈台附近ノガソリヲ加味スル
戰鬥法ノ研究演習ノ結果ニ基キ海岸地帯陣地
生陣地田中陣地及山口陣地ノ應ニ強化セラル
二第一中隊長ハ中隊ヲ分テ第一中隊ノ陣地
以テ明子四日ヨリ當分ノ間發生小隊ヲ併指揮シ
生陣地構築強化ニ任ズル工兵小隊ノ主力ヲ擔カセ
シム

四第八中隊長ハ當分ノ間中隊主力ヲ以テ田中陣地
ヲ強化スベシ

地區隊長 西村大尉

一爾今下士官以上必要ナル戰術教育等ニテ簡
易ナルモノハ部隊本部ニ揭示シアルヲ以テ各隊適
宜利用ノコト

二先般實施展覽會ニ等賞以上個人入選

者ニ對シ賞狀ヲ授與ス豫定ニ付キ各隊毎高晉
 隊號官氏名ヲ記載シ明ニ四日正午迄大隊副官ニ
 報告セラルト度ニ
 明ニ四日九日各隊命令受領者ハ部隊本部
 前ニ集合ス

十二月五日
 伊江島
 西江前

一中隊長ハ渡久地附近ニ出張中ニテ本十五日ヨリ約二週
 間山々分遣隊ノ海岸陣地強化ノヲシテ將校ノ指示スルニ隊
 ヲ派遣シ之ヲ迅速ニ構築マシトス
 依而中澤少尉ノ指揮ニ依リ前日ノ第二項ニ基ク人員
 ハ六七〇晝食携行ニテ部落若先端ニ集合シ山々部落到
 リ之ヲ構築作業ニ從事ス
 一八日作業ヲ終了歸營ス

二雨餘、殘存兵力ハ勤務奉仕者ヲ使用シ依然棲息掩蔽部
 ノ構築ヲ續行ス

三勤務者

週番士官 田澤准尉

下士官 横山伍長

上等兵 間間上等兵

四隊人員 變化ナシ

伊江島地區隊命令 伊江島第一分隊

二 陸軍一等兵 上野吉男

〃 〃 佐藤貞一

〃 〃 佐藤 茂

右ノ各大隊本部勤務ヲ命ス

陸軍兵長 相樂 一

〃 一等兵 早坂久志

受領命令
 西日命
 第九四號

會報

陸軍一等大 五十嵐 謙

伊藤浪雄

右ノ者大隊本部勤務ヲ免ス

一郵便物検閲一般ニ不確實ニリ易ニ最近防護上
 検閲等セリタル例多シ發行者ハ勿論檢閲有其實
 任問ハレ處罰割セラル事アルニ付嚴ニ注意ノト之ガ
 爲「無事軍務ニ勉勵ナリ或ハ氣候云々等」ノ外
 狀況記載ハ之ヲナル様指導セシメ度シ

二十一月分ノ勞務賃金支拂ニ便ナル如ク各隊ハ勤
 勞奉仕者ノ住所氏名年令ヲ確實ニ調査シ十二日
 正午迄ニ經理室ニ通報セシメ度シ

尚勤勞奉仕非協力家庭ヲ調査シ(家庭事情狀
 況ヲ明カス)十月二十日迄ニ地區隊長ハ報告セシメ
 之ガ處置ハ地區隊長ニ於テ行フ

十月五日
伊江島
西江前

中隊命令

一前日同様主力ヲ以テ渡邊中尉以下十九名ハ七ヨリ五
 山々庫地ニ強化工事ニ從事シ殘存兵力ハ勤勞奉仕得
 棟息掩蔽部構築ニ從事ス

二三泊ノ豫定ヲ以テ幹部教育専修員トシテ渡久地附
 近ニ出張中ノ中隊長ハ豫定變更ニ依リヨリヨリ歸隊ス
 三名護陸軍病院ニ入院セル佐野正次ハ腸チラステ病者
 決定通報ヲ受ク

三之ガ所屬ハ中隊タル第六隊ノ第二分隊ヲ現宿舍隔
 離シ之ニ要スル一切ノ處置ヲ行フ

四大隊本部勤務當番兵交代ニ關聯シテ如ク將校
 當番ノ免命ヲ行フ

中隊命令 十月十五日

一免陸軍一等兵 川村清藏
 山崎吉一郎

受領命令 西日命 第九八號	免陸軍隊兵 佐藤澤治	命陸軍上等兵 佐藤穂次	陸軍一等兵 倉石治太郎	松澤一夫	右頭書、通り將校當番ヲ免命ス	五隊人員 變化ナシ	地區隊命令 十一日午五時一九〇〇 部隊本部	一名護野戰病院入院中ノ一等兵佐野正夫 本二十五日陽チラスト決定セシニ付地區隊ハ本二十五 日第三期防疫ヲ實施セトス	二各隊ハ防疫ノ規定並ニ注意事項ヲ嚴守シ ガ根絶ヲ期スベシ	三本部及各隊ハ將校一名下士官一名ヲ防疫委員 及助手トシテ防疫ニ任ゼムベシ
---------------------	---------------	----------------	----------------	------	----------------	-----------	-----------------------------	----------------------------------------------------------------	---------------------------------	-----------------------------------------

西日命 第九八號	防疫委員 同助手ハ明三六日ハロロ部隊本部前ニ集合シ并テ口軍醫ヨリ所要ノ指示ヲ受クベシ	地區隊長 西村大尉	伊江島地區隊命令 十日午五時一九〇〇	一明三六日ハロロヨリ令營衛兵ヲ通シ防疫委員 第一令營衛兵 司令 下士官 一	歩哨掛(兵長若ハ上等兵) 一	歩哨 六	哨隊手 一	位置部隊本部前	第二令營衛兵 司令 下士官 一	歩哨掛 上等兵 一	歩哨 六
-------------	--------------------------------------------	--------------	-----------------------	------------------------------------------	----------------	------	-------	---------	-----------------	-----------	------

喇叭手

位置善致止場

細部ハ通番司令ヲテ指示セム

十日午育
伊三島
日三首

- 一 依然主力ヲ以テ山山陣地ノ強化ニ事ニ從事スルト共殘存兵力ハ棲息掩蔽部ノ構築ヲ村民ノ勤勞奉仕ヲ得實施ス山々陣地援助中澤少尉以下予九名
- 二 山々陣地構築指導ヲ中隊長ハ山々分遣隊ニ到リ直接指導ヲ當ル
- 三 夜邊中尉及笠島曹長ハ防疫奉負トシマハロロ本部前ニ到リ所要ノ指示ヲ受ク
- 四 三種防疫ヲ實施ス
- 四 五 三 中隊長ハ部隊長ノ下ニ集合ヲ命ゼシテ夜邊

中尉ハ代理ニ參集シ直ニ山々部落ヲ連絡ス
 五 六 日 中隊長ハ急遽歸隊シ大隊長ノ下ニ到リ九命
 令ヲ受ク

尤記

- 一 本夜ヨリ梱包準備ヲ行ヒ明後ニ入首遣ニ先シ大隊長ノ歸隊後如何ナル状況ニテ出發スヤテ知レザルヲ以テ二十九日出發トスハレチモ出來得ル如ク實施スベシ
- 二 其ノ間對空警戒ヲ一層嚴ナクシテト
- 三 以上中隊長歸隊後直ニ各山隊長ヲ集メ之ガ梱包實施ノ各擔任區分及擔任者ヲ定メ南朝ヨリ令ヲ奉ケテ移駐準備ニ從事スベク命ズ
- 四 大各擔任準備者ハ夫々所要ノ區者ヲ受ケ梱包ヲ實施ス

七隊人員變化ナシ

十月二十日

時

江島

一 全員新任務に移行し、為ノ物品梱包ヲ終ルニ實施ス
 一 新任務者
 一 第二全營新夫 四部軍曹以下九名
 一 第三全營新夫 村山軍曹以下九名
 一 隊人員變化ナシ

要領命令

西水命

第五號

伊江島地置隊命令 十月二十日 一號
 一 地置隊ハ獨表四口放休命令第七六號ニ基キ毎日
 〇六三〇一見〇〇ニ至ル間丙號戰備實施中處
 丙號戰備ヲ解除セラル
 二 各隊ハ丁號戰備移行之ガ實施ニ任ズベシ
 地區隊長 西村大尉

會報

一 本日又飛行場依隊大隊ニチラス患者(真症)一
 名發生ニ付各隊ハ防疫會報ヲ嚴守サドシ
 二 大竹戸附近ノ井戸ハ使用スル様指導セシメ度シ

十月十八日

時

江島

一 依然梱包作業ヲ續行シ移駐準備ニ専從ス
 二 中隊長ハ大隊長ノ下ニ集合ヲ命ゼラル
 一 隔離實施中ノ第六隊ノ二ヶ分隊ノ内ヨリ橋山伍長
 長并突長ハ腸チフスノ疑ヒアルヲ以テ一層徹底的ニ
 防疫地ニ隔離ヲ實施スルニ為醫務分室空ハ協力ヲ
 得之ヲ根絶防疫ヲ實施ス
 尚山ヶ分遣隊ヨリ大野軍曹鈴木衛生兵長ノ歸
 隊ヲ命直チニ復歸セシム

四新務者

通番下士官 大野軍曹

五隊人員變化ナシ

受領命令

西作命

第五八號

伊江島地區隊命令

十一月二十六日

一地區隊八營分、間對戰車戰鬥法、挺身

奇襲夜組、動作(掩蔽部近接シ不意爆薬ヲ

投擲スル動作之ニ呼應スル擲込隊、動作)教

育ヲ實施セテス

一各隊ハ之ガ教育計畫ヲ速クニ立案シ大隊長ノ

一閱ヲ經テ訓練ヲ實施スヘシ但シMGS TAB Aハ庫地構

築ヲ續行スベシ

地區隊長 西村大尉

會報

一尤記課目各隊毎ニ合同研究、上十有日正午迄

二部隊出相成度

尤記

敵ノ空襲部隊用法

對空機部隊戰鬥準備

同戰鬥法

二連絡休トシテ栗石少尉田澤准尉七八九中隊

司各々下士官ヲ長スル一介隊ニ機關銃中隊

ヨリ下士官以下五名ヲ派遣セラル、豫定付何時

三モ出發シ得ル如ク準備シ置カレ度

三尤記分類ニ基キ梱包數總重量(冠)總容

積(立方米)ヲ至急調査ノ上明三九日ハ呂迄

報告セラレ度ニ

尤記

兵器彈藥種株築城資材貨物

十月十九日
晴
伊江島
西江前

一前日同様移駐準備ヲ實施ス

陸軍伍長 横山一男

矢長 長井辰一

四板ヲ利用シテ梱包用木箱箱作製行フコト

尚木箱ニ付スベキ木札ヲモ併セ製成作テシ置キト

五破損セル彈藥箱ハ運搬ニ支障ナキ様板ヲ利用

シテ修繕ヲナシ置キテ

六一級中隊ハ對戰車戰鬥挺身奇襲擯込等

ノ訓練ヲセシメ度シ幹部ハ右諸訓練資料

ノ蒐集整理ヲ行フコト

七各隊ハ幹部候補生志願者ヲハ官氏名ヲ明

二十九日ハ口迄報告セラレ度シ

陽チラスノ疑(病名未定)ニテ名護野戰病院ニ入院シ
之ガ附添ヒトシテ伊藤伍長以下二名三日ノ豫定ヲ以テ
ニ非常用集積糧秣トシテ中隊ニテ保管ニテラレ糧秣
ヲ經理室ニ返納ス

四二〇〇西作命第五九號ヲ受領ス

五隊人員

將校四准士官一下士官一五兵一八 計二二八名

伊江島守備隊命令 十月十九日 伊江島

一 陸軍伍長 伊藤勇三

衛生兵長 曾我平作

一等兵 笹川一郎

陸軍上等兵 佐野健次

衛生業務連絡ノタメ名護野戰病院ニ出張ヲ命ス

一 陣地構築用木材伐採ノタメ瀨崎瀨底ニ派遣

受領命令
西日命
第九八號

西作命
第五九號

中ノ徳水曹長以下三十八名ハ同作業ヲ中止シ殘務
整理ノ上明三十日歸隊スヘシ

伊江島地區隊命令 十月二十九日 伊江島

一本職新任務ニ基ク偵察班ヲ前詰ノ間嘉手納
及那霸附近ニ出張ス

一 陸軍中尉 渡邊喜一

一 少佐 森野芳雄

渡邊 透

右者獨浪ニ五作命第七七號第四項ニ基ク新任地
ニ先行シ引継及設營ニ任ズヘシ

服裝ハ完全軍裝ニシテ糧秣十日分及履具携
行ス

依而用平日ノヒヨ道ニ部隊本部前ニ集合シ
所要ノ指示ヲ受クヘシ

四 陸軍少尉 栗石重郎

右者明後十有日渡久地到リ尤記矢力ヲ指揮
シ連絡ニ任ズヘシ

尤 記

第八中隊 准士官以下一隊十有日出發

服裝ハ完全軍裝トシ糧秣二週間分及履具携
行ス

地區隊長 西村大尉

十月二十日

獨浪ニ五作命第七七號並ニ西作命第五九號ニ依リ新任

地ノ引継及設營主任ヲ命セラルル渡邊中尉ハ十月二十日

伊江島 新任地ニ向テ先行ス

前日引續キ移駐準備ヲ實施ス

三隊人員其他變化ナシ

受領命令

獨立混成第一五聯隊命令

十月二十九日八時

獨振三系命
第七號

二聯隊ハ嚴ニ企圖ヲ秘匿シツル爾後ノ行動ヲ準備スルト共ニ情勢カニ即應スル訓練ヲ實施セヨトス

四各隊ハ尤記人員ヲ明テ白ラセヨ。迄本部國民學校ニ差出シ渡邊中尉ノ指揮下ニ入ラシメ新任地ニ先行シ引継及設營ニ任セシムハシ

五各隊ハ移駐準備ヲ完整スルト共ニ專ニ情勢即應ノ訓練ヲ實施スベシ

獨立混成第三聯隊長 美田大佐

田江島地區隊命令

十月三十一日一六時

西日命
第九號

陸軍兵長 加藤善次

一等兵 那須野福雄

榎本英男吉

右者明十一月一日ヨリ當分ノ間制本村ノタテ渡久地ニ到リ部隊本部藤本中尉ノ指シテ受テスシ
服装ハ完全軍裝トシ糧秣ニ道間分履具携行トス

五舍營衛兵尤ノ日割ニ依リ服務スベシ

十月一日

三機

〃 一日

七中隊

〃 二日

八中隊

〃 四日

九中隊

〃 五日

獨機

〃 六日

獨速

